

ほほえみの会の総会が開かれました。  
およそ 50 人が参加した総会では 97 年度の活動内容、  
会計報告が行われたあと、役員が選出されました。  
世話人は石川美奈子さんに変わり鈴木啓之さんが引き  
受けてくれました。よろしく申し上げます。

< 98 年度役員 >

代表 池田 恵一  
副代表 鈴木 利治  
世話人 藤田 妙子 杉山 禎 島崎 美由貴  
塩川 美恵子 村瀬 彰子 鈴木 啓之  
会計 小嶋 隆

#### 体験談

石野誠一さんは子どもの病気がわかった当初、先生から助かる見  
込みは少なく覚悟するよういわれたそうです。とにかく生きて  
いて欲しい。そんな思いも治療が順調に進むにつれ、だんだん欲  
が出てきた。そして子供が元気になるにつれて、自分にもしもの  
事があたらこの子はどうなるのだろうかと考えようになった。  
そこで保険に興味を持ち 40 歳で仕事も保険会社に変えた。親を  
失った子供達も幸せに安心して暮らして欲しい。  
それが今、ライフワークになったという事です。

#### 講演「患者と家族のストレス対処法」

チャイルドライフスペシャリスト 藤井あけみ さん

とは日本では馴染みのないものですが には  
30 年の歴史があるそうで保母さんと心理療養士を併せた仕事の  
ようです。  
ストレスがたまるには 4 つのニーズ。 身体 - 痛み 心 - 不安  
恐れ孤独感 社会的 - 経済、そして仲間（子どもは仲間の中で  
） 信仰 - 宗教、霊（何故うちの子だけが）

#### 子どものストレス

##### 0 歳 ~ 3 歳

親から離される。普段の生活のリズムが壊される（病院内が明る  
すぎることや機器の音）

お母さんの声や歌をテープに入れて聞かす。抱っこや触れる  
治療は本人に選択権がないので生活面では本人の意見を聞く事  
が大事（ジュースはオレンジかリンゴか？  
体拭きは注射の前にやるか後にやるか？など）

##### 3 歳 ~ 5 歳

空想力が高まり痛い治療はお仕置きだと思う  
いつも病院内では受け身なので遊びは能動的に  
（人形ごっこで普段されている注射を人形にする遊びでは自分が  
主役）

##### 6 歳 ~ 12 歳

良い子になろうとする意識が強い 口に出すのが恥ずかしい  
未来や友達関係への不安  
夜寝るときに良かったなと思える毎日を。論理的説明必要。

##### 12 歳 ~ 18 歳

思春期、髪の毛が抜けるなど自分の体が変わる事へのショック  
仲間に受け入れられるか気にしつつ自分を形成

の病院では親は 時間面会でき処置室でも子供と一緒にいる。  
子どもが一番辛いときに親は離してはいけないという考え方。  
しかしそこには医師と家族の間に が入り家族の  
精神的なケアやアドバイスを行う

県がんセンター小児科設置要望について県の準備室長が来て説明  
をしました。何故小児科が計画に入っていないのかについては  
センターを作る基本的な考えは高齢化に伴うがん患者の増加に対  
応するもので、小児の患者は減る傾向にある。  
また小児医療は専門性が必要で、療後の体制や訪問学級、身体に  
沿った機器、心理面スタッフなどが必要。  
それらはこども病院で対応したいとのことでした。

次回は 7 月 12 日（日）12 時からです

ほほえみの会 代表 池田 恵一